ピー・エス・シー「製本稼働システム」

商印への本格進出の足固め

エコ・プリンティングを柱に　ワンストップの強み活かす

クオリス製本（埼玉県入間市）が導入

PRIMEDEX出展システム

NTTクオリスグループのクオリス製本株式会社（岡田昭彦社長、埼玉県入間市）は、今年4月からピー・エス・シー株式会社（原田敏明社長、東京都足立区）の「製本稼働データシステム」を本社工場の埼玉事業所をはじめとする全国の4事業所に導入し、製本現場の生産管理、原価計算に運用している。導入の経緯と活用方法、同社の今後の戦略について、今敷恵介取締役生産本部長、裏野和彦生産本部担当部長、山下昇埼玉事業所長、岡本光春入間製本担当課長に聞いた。

（左から）裏野生産本部担当部長、今敷取締役生産本部長、山下埼玉事業所長、岡本入間製本担当課長

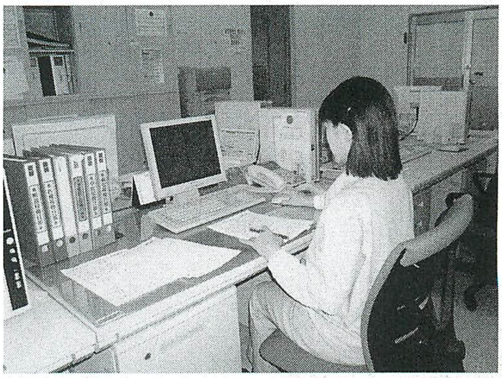
電話帳印刷を応用 ノンヒート印刷

クオリス製本株式会社はNTTクオリスの100%出資会社として、昭和61年（1986年）に創業した。埼玉事業所のほかに、仙台事業所、守口事業所、熊本事業所の4つの事業所・生産工場を持ち、約260人の従業員を擁する。埼玉事業所では無線綴じ3ライン（34駒、28駒、24駒）、中綴じ3ライン、平断裁機4台、貼込み機4台、折り機15台などが稼働し、印刷後の製本加工から梱包、発送までのワンストップサービスを行っている。

タウンページなどNTTの電話帳生産を一手に担っている親会社のNTTクオリスだが、昨今では携帯電話の普及等が影響し、電話帳の需要が減少。打開策として、これまで培ってきた技術を活かし、2002年から一般商業印刷物の生産を開始した。

特に、近年ではNTTクオリス東日本工場で稼働する2台のA横4倍判輪転印刷機で、「ノンヒート印刷」を行い、求人誌や賃貸情報誌など各種パンフレットに応用している。ノンヒート印刷は、浸透性のある用紙を用いることでインキの乾燥工程を削減、省エネルギー化と短納期、低コストを実現する。さらに、ノンヒート印刷適正用紙を使用することで、製品の重量も大きく軽減し、輸送コストの節減にも貢献する。

また、クオリス製本でも、2年前に携帯電話の取扱説明書用に二丁製本断裁機を導入した。今後は文庫など出版分野にも進出する姿勢である。



稼働実績データを基に、工程ごとの生産データを入力

自社コストを徹底見直し

今敷取締役はピー・エス・シーの「製本稼働システム」の導入経緯について、電子入札制度も視野に入れた受注競争への布石であると話す。

「電子入札に勝つには、先ず自社コストを徹底的に見直さなければならない。顧客に原価に基づいた見積り額を提示するために、生産状況を数値化し、確実な現場管理と社員の意識改革が必要となる」。

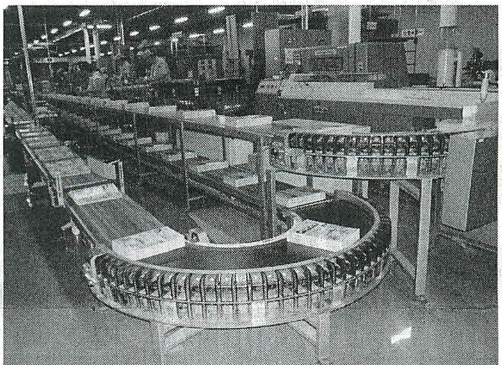
2009年になって導入の方針が固まってから1年余りの時間を費やし、ピー・エス・シーの原田社長とともに構築したシステムの特徴は次のとおり。

①これまで紙ベースで管理していた稼働日報を、製本稼働実績のデータベースに入力することで原価把握のための基礎資料として蓄積。

②要員別時間単価や、針金、糊などの材料費をあらかじめマスターとして登録し、各工程での稼働実績を入力することで各生産工程で発生する原価を算出する。

③原価は事業部別、製品別、工程別などに集計され、受注額との差額を、収益として把握できる。製造費のどこに問題があるかを検証する資料となる。

このシステムにより、生産状況が工程別、製品別に把握することができ、設備、オペレータを効率的に運用、配置することができる。



埼玉事業所の無線綴じライン

現在、同システムは全国の4事業所で稼働している。本格稼働してまだ数ヵ月だが、埼玉事業所の稼働状況について今敷取締役は「最初はデータが集まらなかったが、オペレータが慣れてきたこともあり、徐々に蓄積されてきた。稼働日報としても、オペレータ1人1人の意見が重要な改善ポイントになる」とその効果を語る。

裏野生産本部長も「守口事業所では7月に導入したばかりで、まだ不慣れなところも多い。しかし、オペレータがデータを入力しながらコスト削減の意識を持つことが重要だと考えている」と話す。

製本稼働システムが蓄積したデータは月例会議で全グループ、全社員に公開し、社員全体の意識改革に役立てている。

原田社長の対応についても、「われわれの意向すべてがシステムに反映されており、よくここまで構築していただいた」（今敷取締役）と話す。

生産現場の把握という足固めを進めるクオリス製本。同社の次なる一手について今敷取締役は、「今後さらにペーパーレス化が加速することが予想されるが、これまで継続してきた事業を応用し、他社にはない独自色をいかに築くかが鍵になる。当社の強みである印刷から製本、発送までのワンストップサービスを活かし、本年度から岡田社長を中心に本格的にノンヒート・エコロジー印刷を開始し、社会ニーズに合ったサービスを提供している。さらに、電子書籍の総合ドキュメントサービスも視野に入れている。製本稼働システムはそのための有効なツールとして活用していきたい」と意気込みを語る。

◇　◇　◇

ピー・エス・シーは、7月22日から24日の3日間、横浜市のパシフィコ横浜で開催される「PRIMEDEX2010」に出展する。小間番号は40。

顧客の業務形態や取扱い品目、会社の規模に合わせてカスタマイズし、最適化された製本管理システムを提案する。